



防災だより

危機管理室

令和2年度 上島町防災教育セミナーについて

2月2日から4日にかけて、町内自主防災組織の代表者などを対象に、令和2年度上島町防災教育セミナーを開催しました。

平常時と災害時の新型コロナウイルス感染症対策について、模擬訓練などの体験を通じて学び、感染症対

策および防災対策への意識を高めることができました。

※新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、少人数、分散開催（弓削会場、生名会場、岩城会場）により実施しました。

引き続き、新型コロナウイルスに

関する情報提供や注意喚起を実施していきますので、感染予防対策に、ご理解・ご協力をお願いします。

●問い合わせ

総務課危機管理室 ☎77-2500



【弓削会場】2/2（火）せとうち交流館



【生名会場】2/3（水）生名地域交流センター



【岩城会場】2/4（木）岩城総合支所2階

火災・救急・救助は

119 消防だより

令和2年度全国統一防火標語

「その火事を 防ぐあなたに 金メダル」

上島町では、消防団員を募集しています。町内人口の減少および高齢化により、消防団員数は減少しており、防災力の低下が懸念されています。消防団員は、消火活動や災害時の活動だけではなく、火災予防啓発や防災リーダーとして、住民の安心と安全を守る重要な役割を担っています。消防団員には、活動手当や年額報酬などの支給があり、5年以上の活動で、退職金の支給もあります。上島町内に居住または勤務しており18歳以上であれば男女を問わず入団可能ですので入団を希望する方は上島町消防本部までご連絡下さい。



消防団員募集！



令和3年1月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R3累計
火災	0	0	0	0	0	0	0
救急	17	10	5	0	0	32	32

(令和3年1月31日現在)

上島町消防署 ☎77-4118

上島町幼年消防クラブ退団式

2月上旬、上島町各保育所において、幼年消防クラブ退団式を行いました。退団式では、防火DVDの鑑賞と防火豆まきを行い、園児たちは「鬼は外」と大きな声で豆をまき、火遊びを誘う悪い鬼を退治しました。最後に「ぼくたち、わたしたちは、火遊びはしません」と、大きな声で約束しました。

弓削



岩城



生名



魚島



3月は柑橘の剪定の時期となります。温州みかんは、表年が予想されますので剪定はやや強めに新しい新梢を発生させましょう。昨年問題となった病害虫についても後手にならないよう気を付けましょう。1月号では、ミカンサビダニについて紹介しました。今月は、かいよう病と黒点病について紹介します。

1 かいよう病

最近の奨励品種は、かいよう病に弱い品種がほとんどです。そのため、発芽前からの防除で発病を抑えることが大切です。かいよう病は、かんきつ類に発生する細菌性の病気です。品種により抵抗性が違います（表1）。病原菌は伝染力が強く、春先の柔らかい葉（気孔感染）や台風などの強風（傷感染）を伴う雨により容易に感染し、大きな被害が出てしまいます。

被害の様子

病斑は始め白色の小さなカサブタ状で、後に拡大し褐色の大きな病斑となります（写真1）。激発すると枝や葉に病斑が発生し、これが翌年の発生源となります（写真2）。



写真2 枝に発生した病斑



写真1 果実に発生した病斑

表1 かいよう病に対する感受性

感 受 性	品 種
発病しやすい	レモン、ネーブル、伊予柑、はれひめ、たまみ、愛媛果試第28号、甘平
中	甘夏類、セミノール、はるみ、不知火、せとか
発病しにくい	温州みかん、八朔

感染経路と発病条件

病原菌は葉や枝の病斑部で越冬しており、新しい病斑ほど有力な感染源となります（秋芽の病斑）。病斑から雨で流れ出た病原菌は、気孔や傷口から組織内に侵入して発病します。病原菌の増殖は3月頃から始まり、適温は25℃、30℃で、葉や果実の組織が柔らかい時期の強風・多雨条件で多発します。このため、春に気温が高めで強風をともなった降雨があると発生が急激に拡大し、春芽や幼果でも発生します。また、夏秋梢にミカンハモグリガの被害を受けると発病しやすくなるので注意が必要です。

防除のポイント

① 発病しやすい品種、昨年発生が多かった園では、発芽前（3月中・下旬頃）にICボルドー66Dなどで必ず防除します。② 台風、大雨、長雨が予想される場合は、降雨前の予防散布が効果的です。③ 発病した葉や枝、果実は発生源となるので、見つけしだい切除して園外に出します。また、ミカンハモグリガの防除を徹底しましょう。

2 黒点病

④ かいよう病に弱い品種を植える場合は、風の当たりにくい園地を選び、生け垣やネットなど防風対策を行います。

黒点病は、枯れ枝上に形成された病原菌の胞子が降雨によって飛散し、果実や葉に感染します。昨年は、6月中旬から7月中旬まで降雨が多く、晴れ間がわずかにありませんでした。防除のタイミングが遅れたことにより黒点の発生が多くなった園もありました。週間天気予報などを見ながらタイミングを逃さないようにしましょう。

防除は、前回散布から30日後、または積算降水量が200mmに達した時に次の防除となります。ただし、せとか、はれひめは、黒点病に弱い品種なので降水量180mmで次の防除を行ってください。また、耕種的防除として枯れ枝を除去することが大切です。また、伐採樹や剪定枝も枯れてしまうと伝染源になるので園外に出しましょう。